




JAきたみらい
CSRレポート
2026



きたみらい農業協同組合

〒090-0813 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
TEL: 0157-32-8777 (代表) FAX: 0157-32-8778
<http://www.jakitamirai.or.jp>

JAきたみらいCSRレポート 2026について

編集方針

本レポートは、持続可能な社会へ向けて、JAきたみらいが事業活動を通じどのような役割を果たしていくのかを考え、その果たすべき役割と取組みについて報告しています。組合の紹介も兼ね備えたコミュニケーションツールとして、今後も、ステークホルダー（利害関係者）の皆様適切に透明性の高い情報をお伝えして参ります。

対象読者

JAきたみらいにかかわる、あらゆるステークホルダー（利害関係者）を対象読者としています。

対象期間

2025年（2025年2月1日～2026年1月31日）の実績ですが、活動や取組み内容は過去に遡った情報も掲載しています。また、最新の情報をお伝えするために、直近の情報も一部紹介しています。

問い合わせ先

きたみらい農業協同組合 総務企画部 企画人事グループ
TEL:0157-32-8782 FAX:0157-24-6202

編集方針

発行日：2026年6月
次 回：2027年6月（前回2025年6月）

■ 玉ねぎの廃棄物利用

日本一の生産量を誇る玉ねぎの主産地として、きたみらいでは、玉ねぎをイメージしたオリジナルの制服を着用しています。

男性・女性総合職用の上着と女性用のブラウスには、玉ねぎのオニ皮から色素を抽出して染色した草木染色地を使っており、ズボン・スカートなどはそれぞれ、様々な作物が命を育む緑の大地を表現する濃緑色となっています。

玉ねぎをPRし、大量に出るオニ皮を染料として役立てる、環境に優しい取り組みの一つとなっています。



玉ねぎオニ皮

抽出染料

JAきたみらいCSRレポート CONTENTS

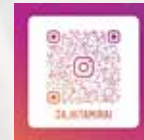
JAきたみらいCSRレポート2026について	1
1. トップメッセージ	4
2. 特集	
「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」	5
特集 1 力強い農業のために	7
特集 2 魅力ある地域社会のために	9
きたみらいの向うサポート	11
3. コミュニケーション	13
4. よりよい環境をつくる	14
5. CSR経営の基盤	17
6. “人づくり”	19
7. 組織概要	21
8. JAきたみらいの事業	23
9. 第三者意見	26



シンボルマーク



JAきたみらいHP



Instagram

日照時間が長いJAきたみらいの空に燦々と輝く太陽と大雪の山々からオホーツク海にそそぐ常呂川とJAが歩むべき道を表現しました。太陽の光を構成する8つの楕円は、8地区が力を合わせ発展していく様を表しています。

「組合員とともに、組合員による、組合員のため」の 地域に貢献する 「魅力あるJA、選ばれるJA」を目指します。

J A 綱 領

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

経 営 理 念

1. 私たちは、「全ては組合員のため」というパートナー精神のもと、多様化・高度化する組合員ニーズに的確に応え、その健全経営に向けた支援を行います。
1. 私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から信頼される人づくりに努めます。
1. 私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、地域社会の活性化に貢献します。

経 営 信 条

組合員との信頼関係構築の第一歩は、現場に出向き、現場での対話活動を通じて現場を知ることにあります。

事業運営方針

1. 市場原理の選択競争の中でも、生き残っていける強固な事業運営方式を確立します。
1. 民主的運営を基本に組合員への公正・公平なメリットの還元を追求します。
1. リスクを見極めながら、新たな事業運営に積極果敢に挑戦する自己決定・自己完結型の経営を目指します。

TOP MESSAGE 2026

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 大 坪 広 則



皆様方には、日頃より当JAの事業につきまして、多大なるご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

JAきたみらいは、平成15年に8つのJAが合併して誕生した組織で、北見盆地の輝かしい未来を願い「北見(きたみ)」と「未来(みらい)」をあわせ『きたみらい』と名づけられました。当地区の農業は、玉ねぎ・じゃがいもを中心に麦類、てん菜、豆類、水稻などの耕種作物に加え、生乳をはじめとする畜産物を多様に生産しているのが特徴で、その販売高は全道ではもちろんのこと、全国でも有数の取り扱いとなっております。

さて、現在、農業・農協を取り巻く環境は、近年の気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

また、政府は改正された食料・農業・農村基本法に基づき、昨年3月に新たな基本計画を策定し、食料安全保障の強化や環境調和型産業への転換を具体化する方針です。初動5年間の集中対策期間において、農業構造の転換を加速させ、持続可能な農業と地域社会の実現に向けた施策が本格的に展開されようとしています。

そのような中でも、JAの使命は、組合員が生産した安全・安心で良品質な農畜産物を消費者へ安定供給しながら、地域社会にも貢献し、持続的に社会的責任を果たしていくことにあります。組合員の営農と生活を守ることこそ、第一義にあることは申

し上げるまでもありませんが、「食料安全保障」の意味をあらためて見つめ直し、地域に暮らす一人ひとりが「量的にも質的にも十分な食料を手に入れられる」よう、消費者の方々のご理解をいただきながら、農業・JAが果たすべき役割を果たしてまいりたいと考えております。

当JAにおいては、組合員・組合員家族・役職員が各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくとともに、全国の消費者のみなさまから信頼され、ともに歩んでいくJAを目指します。

さらに、近年、異常気象が頻発する傾向があることから、気象変動に負けない農業の確立に向けて、土地改良・技術導入等、種々の対策に取り組み、また収量・品質の安定化のため、輪作体系の再構築によって農業経営の安定、所得の向上を目指します。

これからも当JAでは、全国の消費者のみなさまへ「安全・安心」な農畜産物を安定的に供給することにより社会的責任を果たしてまいります。そのためにも、組合員をはじめ青年部・女性部・フレッシュミズ・役員・職員が、JAの課題を共有し、課題解決に向けて共通認識を図り、人づくり基本方針の実践に向け、組織全体として協同組合活動の取り組みを強化してまいります。

また、信頼される組織作りを目指し、法令、企業倫理の遵守を強化するため、コンプライアンス推進と整備を進めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化、組合員・消費者の満足度向上、CSRや社会貢献活動の推進、人材育成の一層の充実などに継続して取り組んでまいります。

地域と共に創る

「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」

安全・安心な農業で持続可能な農業の実現と農業の魅力を発信し、農業サポーターの輪を広げ、地域と

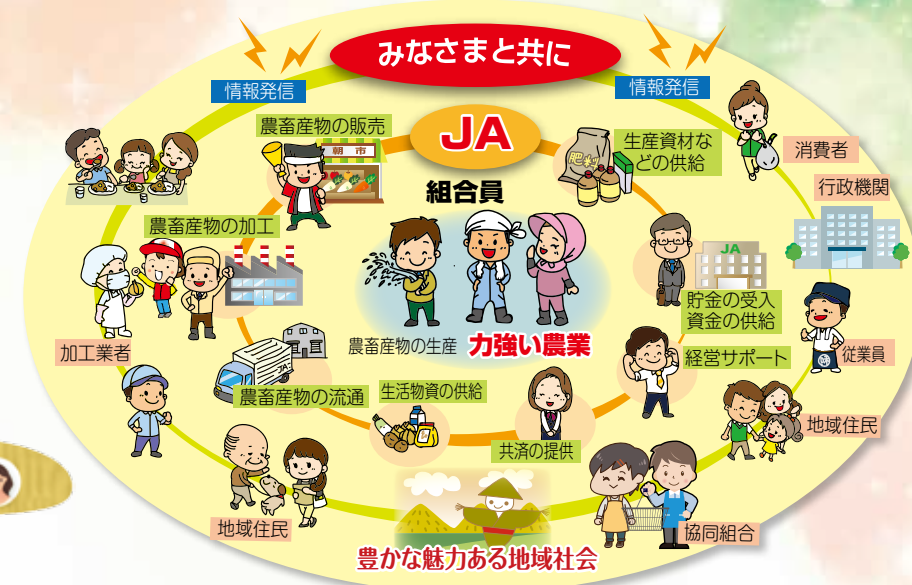
AGRIACTION! HOKKAIDO

AGRIACTION! HOKKAIDOとは

農業（AGRI）から、さまざまな行動（ACTION）を起こすことで、北海道、全国のみなさんに、農業や食への理解を深めてもらえるように。そして、理解を深めたみなさまに、北海道の農業や食を応援（REACTION）してもらえるように。北海道で農業に関わる人たちと、北海道の農畜産物を実際に食べる人たちが、お互いのことをもっと知って、もっと近づくための合言葉。それが「AGRIACTION! HOKKAIDO」

地域社会

共に豊かな社会を築き、共に歩んでいく



食べよう！



店頭並ぶ「きたみらい産」の農畜産物

食材を選ぶときには、きたみらい産・北海道産の農畜産物を、ぜひ積極的に選んでみてください！農家の方々が、安心と安全に細心の注意を払いながら、丹精込めてつくった食材は、みなさんが腕によりをかけて料理をすることで、家族みんなが喜ぶ、おいしいごちそうとなります。



きたみらいの商品が買えるオンラインショップ



食材や加工品の積極的なPR

地元産のものを食べて欲しいとの思いで、いろいろな飲食店で使用いただく、道外の飲食店から産地指定をいただく等、積極的なPRを進めています。

話そう！



地域や全国イベントに出店

きたみらい産・北海道産の農畜産物を食べたとき、その感想を周りのみなさまと共有してみませんか？友人との会話で「〇〇に行ったときに買った野菜がおいしくて」なんて話してみたり、「おいしかったから」ってお裾分けしてみたり、道産食材を使ったお料理をSNSで発信してみたりなど、ぜひ、道産の農畜産物のおいしさを広めてみてください。



facebook・instagram

定期的にくきたみらいの情報を発信しています。コメントをしてくれる方が増え、たくさんの応援メッセージが届いています。

体験しよう！



きたみらいでは、農家の方と北海道のみなさまをつなげるために、さまざまな農業関連のイベントや取り組みを行っています。地域のみなさまに農業を身近に感じてもらえるような食育活動や農業体験の実施、旬の食を楽しんでいただくため地域行事への出店などを行っています。気になったイベントや取り組みには、ぜひ参加してみてください！



収穫体験・収穫祭

地域住民が親子で参加する収穫体験等を行っています。



道外実習受け入れ

姉妹都市である高知県からの学生の農業実習生の受け入れを行っています。

SDGsとは

「Sustainable Development Goals」の略称で「持続可能な開発のためのグローバル目標」を意味し、2015年9月の国連サミットで採択されました。貧困や飢餓、気候変動といった私たちの世界が直面している様々な問題の解決を目指し「誰一人取り残さない」という理念の下、17の目標を掲げ2030年までに世界各国で達成を目指す取り組みです。この取り組みは協同組合の精神「一人は万人のために、

万人は一人のために」と非常に近い関係にあり、地域コミュニティと一体となっている協同組合はSDGsを実現するための重要なパートナーとして位置づけられています。

以降の特集ページにてSDGsのアイコンを表示していますので、当組合の取り組みを一部紹介致します。

関連するSDGsへの取り組み



【特集1】

力強い農業のために

消費者のみなさまが笑顔になるよう、おいしい農畜産物をいつでもお届けすること、それが私たちの使命です。

私たちJAは組合員とともに、信頼される「力強い地域農業」の創造に取り組んでいます。

作物別部会の取り組み

選ばれる産地を目指して安全・安心で高品質な農畜産物をつくるために生産者自らが協議をして、ルールを作り生産者全員でルールに沿った肥培管理、出荷体制に取り組んでいます。

JAは各生産組織の事務局として、予算管理はもちろん、組織活動に関する事務作業や会議等で各生産組織の構成員である生産者のみなさまと一体になって活動を行っています。



作物の生産にあたってのルールづくり

同じ作物を作る仲間が集まって、その作物に関する栽培技術などJAや普及センターと一体となって、学習会や畑などの現地で講習会を開催したり、それぞれの生産者の畑やハウスを巡回し、生育の確認を行ったり、収量の調査を行うなど、高品質・高収量の生産を目指し、生産者間でも切磋琢磨しています。

高品質・高収量・安定供給を目指した取り組み



産地の責任として消費者のみなさまに農畜産物を安定的に供給することが求められています。そのためにも、玉ねぎなどでは、早生や中生、晩生などの品種を組み合わせる作付し、出荷時期を調整することで、長い期間消費者のみなさまに供給出来るよう工夫しています。

より信頼される産地に向けて



生産者自らが都府県の市場や量販店に出向き、直接自分たちが作った生産物の価値を伝え、また消費者のみなさまの生の声に触れることで、「求められることに応えていく」信頼される産地に向けた取り組みを行っています。

所得向上に向けた取り組み

1 販売力の強化



当JAでは安全安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届け出来るよう、販売力の強化に繋がる施設整備を計画的に進めており、農産物の品質維持と安定供給に貢献しております。平成19年度に小麦乾燥調製貯蔵施設、平成24年度に馬鈴しょ集出荷選別施設、令和元年度に玉ねぎ集出荷施設・冷蔵貯蔵施設、令和2年度にCA貯蔵庫、令和3年度に玉ねぎ茎葉処理施設を竣工し、農産物の品質の維持と安定供給に貢献しております。

今後、輸入農畜産物との競争が強まる可能性から、農業所得向上のために、国内への安定的な供給を前提としながら、国外への輸出に取り組んでいくことも求められています。

当JAでは玉ねぎについて、国内需給調整の観点から道内のJAと連携し台湾を中心に輸出を行っており、更なる販売チャネルや消費者ニーズの開拓を進める計画です。

2 効率効果的な事業展開によるコスト低減



当JAは合併当初から地域の融合と合併メリットの追求を目指して様々な角度から経営改革を実践しています。

農業経営の面では、スケールメリットを最大限発揮する施設の再編・集約を実施し、コスト低減肥料の推進や玉ねぎ段ボールのフラップ(ふた)の改良によるコストカット、スマート農業の導入に向けた取り組み等、コスト削減に努めております。

JA経営の面では、「経営資源の選択と集中」の観点から業務の再編を行っております。

3 きたみらいブランドの確立と付加価値の向上



当JAのもち米とメムロピーナッツ(株)のピーナッツを使用した「北海道ピーナッツおかき」

平成21年より加工商品の開発・販売の専門部署を設置し、きたみらいブランドの確立と農畜産物の更なる付加価値向上を目指した商品づくりに取り組んでいます。

地元農畜産物を最大限利用し、「他にない」、「きたみらいらしさ」を表現できる商品づくりをコンセプトに、これまで20以上の商品を開発・販売し、売上は約1億円となっております。

令和8年5月には当JA青年部と芽室町でピーナッツの生産、販売を行うメムロピーナッツ(株)と産地の垣根を超えたコラボ商品「北海道ピーナッツおかき」の販売を開始しました。

当JAでは、更なる加工品開発を通じて「きたみらいブランド」の魅力を全国のみなさまにお伝えしてまいります。

また、地域イベント・食品流通業界の展示商談会への参加や、学校給食・地元飲食店への農畜産物・加工商品の提供により、JAきたみらい・地産地消のPRを行っております。



佐藤 輝
(令和2年入組)

販売企画部 組織振興東グループ
北見地区 玉葱全般・野菜類

業務について

- 生産組織事務局(北見市玉葱振興会・旬菜倶楽部)
- 青果物の集荷・販売(白菜・レタス・キャベツ)

担当職員の一人として

生産組織の事務局として、組織活動の充実化・円滑な運営ができるよう、日々責任感を持って業務に努めています。玉ねぎ集荷や野菜販売業務を通じて、生産者のみなさまとの信頼関係を大切にすることを意識しています。

また、農業を取り巻く環境は先行き不透明な状態が続いていますが、他部署との連携を深め、少しでも組合員のみなさまの力になれるよう尽力してまいります。

関連するSDGsへの取り組み



【特集2】

よりよい社会・地域の創造に向けて

魅力ある 地域社会の ために



地域の基幹産業である農業を中心とした組合員及び地域住民の交流を基に、JA事業の利用や行政と連携した地域の活性化に取り組むことで作られる、快適で豊かな“魅力ある地域社会”を目指します。

農村地域ならではの魅力



農家組合員・地域住民とのつながり

農家の経営者の方、後継者の方、またパートナーの方などそれぞれのコミュニティがあり、積極的に活動しています。農業技術を学ぶための視察・技術研修、農業情勢に対する学習会など様々な研修・交流会を行っています。

また、作る人（生産者）と食べる人（消費者）との距離が近く、食育活動や収穫祭などの各地域での催しにも積極的に参加しています。

これらの活動を通して、地域とのつながりを深めながら、農業の振興やより良い地域・JAづくりに貢献しています。



地域の魅力を発信するために

きたみらい地域の魅力を多くの人に発信するために、Facebook・Instagramやホームページ、メディアへの出演等、広報活動を積極的に行っております。

また、“地元農畜産物の収穫の喜びを消費者に届けたい”という思いから地域のみなさまへ向けた地域行事を催しております。

また、北海道北広島市にある「くるるの杜」や毎年行われる「JAみらいサミットフェア」にてJAきたみらいの農産物やオリジナル加工商品の販売を行い、北海道内、本州の消費者のみなさまへきたみらいの農畜産物を届けています。



地元農畜産物を子どもたちへ 食の大切さを伝える



地元農畜産物に親しんでもらう食農教育の一環として、北見市、訓子府町、置戸町の1市2町へ地元産の玉ねぎとじゃがいもを送っています。送られた玉ねぎとじゃがいもは、食農教育パンフレット「玉ねぎちゃんとじゃがいもくん」とともに、保育園や小学校の給食用として子どもたちに届けられています。

また、JA名に「みらい」を冠したJAのつながりで、JA津軽みらい地域の子もたちにも、玉ねぎとじゃがいもを送りました。JA津軽みらいからは、美味しいうんごが届けられ、きたみらい地域の小学校や保育園へプレゼントされました。

原材料は全て北海道産で、添加物不使用、アレルギーを極力減らしたコロッケを開発し、地域の学校給食で提供されています。子どもたちに安全・安心で、おいしい地域の食を味わってもらうために地元の栄養士の方や組合員の女性組織の意見を反映し、開発しています。

安全・安心な地元食材を使った「給食のコロッケ」



農業の魅力を伝えたい

未来を担う子どもたちに第1次産業である農業の重要性や食の大切さを理解してもらい、関心を深めてもらうため、植付けから収穫食べるまでを実際に行う農業体験活動や親子で参加する農業体験見て歩きツアーなどを開催しています。

このようなイベントを通じて、食や農業に対して興味を持ち「将来農業に携わりたい、食に関わる仕事がしたい」と思ってもらえるように願っています。



一市二町の小学校に教材本を贈呈

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」の密接な関係を意識してもらい、農業への理解を深めるきっかけになることを願い補助教材本を作成し、全国のJAバンクから小学校へ贈呈されています。

行政と一体となった農業振興

1市2町の首長、共済組合、普及センター、JA等で構成されている「北見地区農業振興連絡協議会」があり、農業者のための農業技術研修や担い手対策への支援、地域の方々に対して地産地消の取り組みや食育の取り組みに対する支援を地域全体で行うために協議・活動をしています。

北見地区農業振興連絡協議会

北見市・訓子府町・置戸町・
NOSA北海道オホーツク統括センター・
JAきたみらい

担い手
地域振興
情報部会

農産・技術部会

畜産部会



榎 綾香
(令和7年入組)

営農振興部 担い手グループ

業務について

- ・高齢者生活支援相談業務
- ・健康管理の相談指導、病院等との連携
- ・労災業務（東地域担当）
- ・女性部組織運営（東地域担当）
- ・広報業務

担当職員の一人として

担い手グループでは、高齢者生活相談員としての対応や人間ドック・特定健診の受診勧奨などを通じて、農業者の健康維持・増進に関わる業務を担当しています。組合員のみなさまが心身ともに健康で、より長く営農を継続できるよう支援することを第一に考え、日々の業務に取り組んでいます。

また、女性部の組織運営では、円滑な活動が行えるよう調整を行い、コミュニケーションを大切にしながら組織参画の促進にも努めてまいります。

関連するSDGsへの取り組み



力強い農業、魅力ある地域社会に向けて

きたみらいの 出向くサポート

営農指導部門 経営支援部 ふれあい相談グループ／畜産部 畜産相談グループ



長岡 諒
(令和6年入組)

経営支援部
ふれあい相談西G
相内地区耕種担当

日々の日常業務について

- ・経営相談業務
- ・営農指導業務
- ・各種事業等のサポート業務

サポート職員の一人として

組合員の方々のもとへ出向くことを基本とし、日々のコミュニケーションを大切にしながら信頼関係の構築を目指して業務にあたっています。また、現場対応や日々の業務を通じて様々な知識を習得し、自身のレベルアップをはかりながら、組合員のみなさまに必要とされる職員となれるよう努めています。

日々の業務を重ねる中で、「相談しやすい」等の言葉をいただけた際には、自分の努力が評価されたと感じ、仕事のやりがいにつながっています。

営農指導部門の活動

組合員との絆を強めるために、技術相談並びに総合的経営相談機能の充実と出向く営農の継続実践により組合員満足度・信頼度の更なる向上を目指しています。一年間の営農サイクルに応じた生産技術、経営管理の相談に対応し、最新の情報提供等、各部署と連携してあらゆる面で生産のサポートをしています。

また、地域との共生を目指し、地域行事などを通して地域とそこに居住する組合員との交流も深めている部門です。



営農支援システムで 効率のよいサポート

当システムは(株)JA北海道情報センターの協力を得ながら、JAきたみらいが全道のモデル農協となり開発したシステムです。より充実した組合員へのサポートを行うため、組合員の生産に関わる様々な情報を一元化し、タブレット端末等で検索することができるシステムです。組合員に対する迅速な情報提供とともに営農指導のさらなる充実に大きく貢献しています。



購買部門 資材推進グループ



栗谷川 駿
(令和7年入組)

購買部資材推進G
温根湯・置戸地区
耕種担当

日々の日常業務について

- ・肥料・農薬を中心とした推進業務
- ・低コスト資材や組合員ニーズに合わせた資材提案
- ・資材情報の提供
- ・各種資材の取り纏め

サポート職員の一人として

現場での対話を通じて組合員のみなさまのニーズを的確に捉え、状況に応じた資材提案ができるよう取り組んでいます。

資材価格の高騰や多様化する要望に対応するため、低コスト資材を中心に情報収集を行い、組合員のみなさまの負担軽減につながる提案を意識しています。「出向く購買」の姿勢を大切にしながら、信頼していただける職員を目指して業務に励んでいます。

購買部門の活動

各種資材の取り纏め購買を中心とした供給を行っています。

農薬や肥料、飼料の知識を持った職員が専門推進員として、組合員に商品などの情報を提供し組合員の資材コスト低減や「出向く購買」の継続実践による栽培技術や資材情報、配送サービスを提供しています。

推進にあたっては、ただ農薬などを提供するのではなく、その圃場に合ったより良いものを提案する指導購買を実施することで生産コストの低減にも貢献しています。



金融共済部門 総合渉外課・各支店



島倉 楓花
(令和3年入組)

金融共済部
北見本店総合渉外課

日々の日常業務について

- ・共済加入者の保障点検・保障提案
- ・事故受付
- ・定期貯金等の受け入れ

サポート職員の一人として

組合員・利用者のみなさまが安心して日々の生活を送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾けながら業務に取り組んでいます。

対面でのつながりを大切に、ライフスタイルや環境の変化に応じた保障内容の確認や情報提供を行うことで、身近で相談しやすい存在を目指しています。

これからも地域に寄り添い、信頼されるサポート職員として、みなさまの暮らしを支えていけるよう努めてまいります。

金融共済部門の活動

共済・年金・融資などの総合的な提案の窓口として推進業務を行っています。地域の方の暮らしのサポートを意識した、地域住民への戸別訪問活動を軸に、より広い顧客層へライフステージに合わせた普及推進を行っており、今まで以上に地域の方々のサポート活動を行っています。



関連するSDGsへの取り組み



つながりをつくるコミュニケーション



私たちは、組合員や地域のみなさまとともに歩み、人との結びつきを大切にしています。そして、全国の皆様との絆を大切に、温かい関係づくりをめざします。

組合員、地域・全国の消費者とのつながりを大切に

全国へ情報発信



HPでは、営農情報ははじめ農畜産物の紹介や食育の取り組みなど、きたみ

らいのあらゆる情報を発信しています。また、きたみらいのFacebook ページでは、毎週イベント情報や地域の情報、作物の状況など、身近でホットな話題を掲載しています。地元はもちろんのこと、全国各地の方からのコメントも多く寄せられ、みなさまとの“ふれあい”のツールとなっています。

情報を発信 組合員向け広報誌、コミュニティ広報誌

正組合員・家族との絆づくりにむけた広報誌「おひさまサラダ」を毎月発行しています。

また、准組合員や地域のみなさまには、きたみらい地域の農業のサポーターになっていただくため、コミュニティ広報誌「ぐりんgreen」を年3回ほど発行しています。



HPでは、営農情報ははじめ農畜産物の紹介や食育の取り組みなど、きたみ

全国につながる“みらい”のきずな JAみらいサミット



全国に「みらい」を冠する9つのJA〔JA津軽みらい(青森県)、JAふくしま未来(福島県)、JA千葉みらい(千葉県)、JA東京みらい(東京都)、JA山梨みらい(山梨県)、JA兵庫みらい(兵庫県)、JAえひめ未来(愛媛県)、JA鹿児島みらい(鹿児島県)、JAきたみらい(北海道)〕があり、年に1度、農畜産物の産地間連携や農業の将来に向けて協議を行う「JAみらいサミット」を開催しています。

サミットでは「多様な分野での協力や交流活動の拡大・努力を惜しまず、組合員のニーズを的確にとらえ、改革の目的でもある『農業所得の向上と地域の活性化』に結びつくよう、総力を挙げて取り組む」との宣言を採択しました。

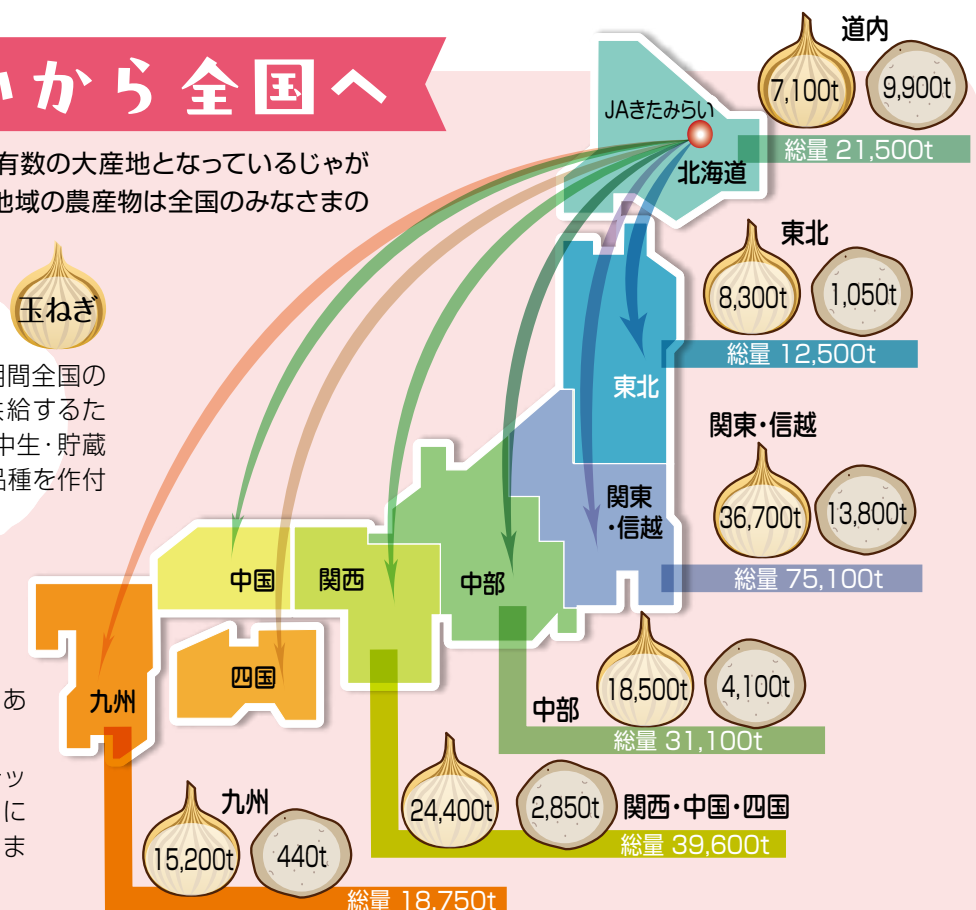
今後もJA間の連携を生かして持続可能な農業、地域活性化に向けて取り組んでまいります。

きたみらいから全国へ

生産量全国一の玉ねぎや道内有数の大産地となっているじゃがいもをはじめとして、きたみらい地域の農産物は全国のみなさまのもとに届けられています。

- 全国一の玉ねぎ産地
- 8月～翌年6月までの長い期間全国の消費者の皆様に安定的に供給するため、早くに出荷できる早生・中生・貯蔵性に優れた晩生など多くの品種を作付しています。

- 全国一のじゃがいも産地である北海道でも有数の生産量
- 男しゃくをはじめ、ポテトチップ用やサラダ用など用途に合わせた品種を作付しています。



姉妹都市・姉妹農協との交流



JAきたみらいではJA高知市と姉妹協定を結び相互交流を行っています。また、北見市と高知市が姉妹都市であることもあり、教育・文化・情報交換や人的交流を通じて、相互の発展と理解を深めています。

昨年は北見市の農業を次の世代につないでいくため、未来の担い手候補である北見市の高校生に北海道では体験できない高知県の農業に触れてもらい、相互の農業の魅力を発見する機会として受け入れていただきました。

また、訓子府町は高知県津野町、端野町は宮城県丸森町とも姉妹都市・姉妹町交流を行っております。

地域とのつながり

農業文化が育んだ、郷土色豊かな祭りや各種催事に積極的に参加し、地元消費者との交流を深めながら、地域農業の情報発信にも努めています。

毎年、冬に訓子府町で開催される「さむさむまつり」では、青年部が半被を着て参加し、カレー販売や子供専用の滑り台を製作して町民の皆様にJAをPRしています。



地域とともに

JAきたみらいは、北見市を拠点に活動する男子カーリングチーム「KiT CURLING CLUB」の活動を応援しています。「KiT CURLING CLUB」は北見市で活動する社会人で結成されたチームで、地区大会や全日本カーリング選手権で入賞するなど実績を残しており、北見からオリンピック金メダル獲得を目指しています。

現在、チームメンバーの一人をきたみらいの職員に迎え、JA職員・カーリング選手として地域に密着した活動をしなが共に地域の魅力を発信しています。



食を支える農業は自然に支えられています。
環境にやさしい農業を実現するため、環境負荷軽減に努めています。

農業と自然との共存を目指して

循環型農業



農業と環境との調和に配慮したきたみらい地域には、玉ねぎやじゃがいも、てん菜、小麦など、畑に作物を作付している耕種農家や酪農（牛）を中心とした畜産農家など様々な農業経営の形態があります。
それぞれ必要な量以上は不要となる麦かんや堆肥などを相互利用することで、環境にやさしい農業に取り組んでいます。



耕種農家(畑)
小麦収穫後の
麦かんの提供



畜産農家(牛)

牛ふんから作られる堆肥の
提供による土づくり及び化学
肥料の低減



環境にやさしい農業へ



環境への負担を軽減するため、化学合成農薬、化学肥料の使用を北海道基準よりもさらに低減（30%～50%）しています。
また、良い土をつくるために、堆肥や有機物を活用し、地力の向上に努めています。
化学肥料の使用にあたり、北海道の施肥基準よりも少ない量でも作物の為に必要以上使用しないよう畑の土のサンプルをとり、土壌診断を行って必要量のみの使用に向けて取り組んでいます。コスト低減はもちろんのこと、環境負担軽減やみに努めています。

GAPへの取り組み

JA グループ北海道畑作物 GAP（農業生産工程管理）手法を基に、JA きたみらいの生産体制に合わせた GAP 手法を導入しています。また、使用した肥料や農薬についての情報を、広く消費者へ提供することで、顔の見える商品作りを行っています。



GAP とは：

GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）。農業現場の「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権・福祉」に関する法令や規範を遵守し、各工程の実施、記録、点検及び評価を行い、継続的な改善を行う取り組みです。

食の安心・安全と環境保全の Eco みらい

Eco

環境に配慮し独自の栽培基準を設定した「ECOみらいブランド」のたまねぎ、じゃがいもの生産に取り組み、生産工程で排出されるCO2を地域が取り組む森林によるCO2吸収事業を支援し、カーボン・オフセット野菜を生産しています。

商品コンセプトは「顔が見える商品」「声が届く商品」「価値を伝える商品」「みんなとちきゅうにやさしい商品」。私たちは「農家の想いを消費者へ」「消費者の想いを農家へ」「今ある環境を子供たちの未来へ」とつないでいきます。

声が届く
顔が見える
価値を伝える
みんなとちきゅう
にやさしい

商品づくり



消費者やユーザーと生産者が交流会を行い、情報交換を行っています。また、販売促進活動とともに、地産地消の推進、食農教育活動を実施し、地域への情報発信を行っています。

きたみらい訓子府地区GAP部会では、消費者が直接確認できない農産物の生産工程において、安全管理の「見える化」に取り組み、2019年4月に13戸の生産者がJGAP団体認証を取得しました。

Ecoみらい

玉ねぎ
138.17ha(62戸)

じゃがいも
78.62ha(25戸)

オリジナルの統一栽培基準をはじめ、取扱要領や現品検査基準もきたみらい独自のものを設定しており、こだわりの栽培法によるこだわりの商品として、消費者の方々へお届けしています。

クリーン農業への取り組み

特別栽培	イエス・クリーン	カーボン・オフセット	バイオ炭
186.11ha 65戸	67.35ha 23戸	223.18ha 85戸	43.78ha 25戸
道基準に対し、化学農薬・化学肥料を半以下に抑えて栽培	道で定められた基準を基に化学農薬・化学肥料を減らして栽培	カーボン(炭素)・オフセット(相殺)生産工程で排出したCO2を他の場所で実施する削減・吸収事業を支援することで相殺する仕組み	バイオ炭(炭素)を土壌貯留することで、CO2を削減する仕組み

農業と環境との調和に配慮した「クリーン農業」では、より「安全・安心」な農産物を出荷するため、化学肥料・化学農薬が最小限の生産方法で栽培しています。また、J-クレジット制度を活用しカーボン・オフセットに取り組み、生産者自らが様々な基準に基づき持続可能な生産に取り組んでいます。

環境配慮をテーマに新たな付加価値を

JA きたみらいでは、J-クレジット制度のCO2除去の方法論であるバイオ炭を玉ねぎの圃場へ施用し、J-クレジットの創出に取り組んでいます。

中でも、特別栽培玉ねぎはホクレンと協力開発をした環境配慮型の玉ねぎ「環(めぐる)」「サステナブルたまねぎ」を販売しており、農業分野での温室効果ガス削減に向けた活動を消費者のみなさまへ伝えられるよう取り組んでいます。

J-クレジット制度とバイオ炭について：

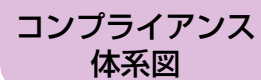
J-クレジット制度とは、温室効果ガスの排出削減量を「クレジット」として国が認証する制度のこと。制度に基づいたバイオ炭を土壌へ施用すると土壌中に炭素を貯留できる効果が認められています。
当組合の特別栽培玉ねぎ「環」「サステナブルたまねぎ」の販売を通して、消費者が玉ねぎを生産する際に排出しているCO2削減に貢献することにつながります。



関連するSDGsへの取り組み



豊かな社会を目指すJAとして



きたみらいのコンプライアンス

コンプライアンス研修

研修内容

- 頼られるＪＡであり続けるために、そして、企業に求められる社会的責任を果たすべく、職員一人ひとりが必要な知識を持ち、その教育・研修を継続的に行うことをコンプライアンス推進の柱としています。

コンプライアンス推進体制

「コンプライアンス通信」の発行について

JAのコンプライアンス推進のための
「コンプライアンス・マニュアル」(改訂)

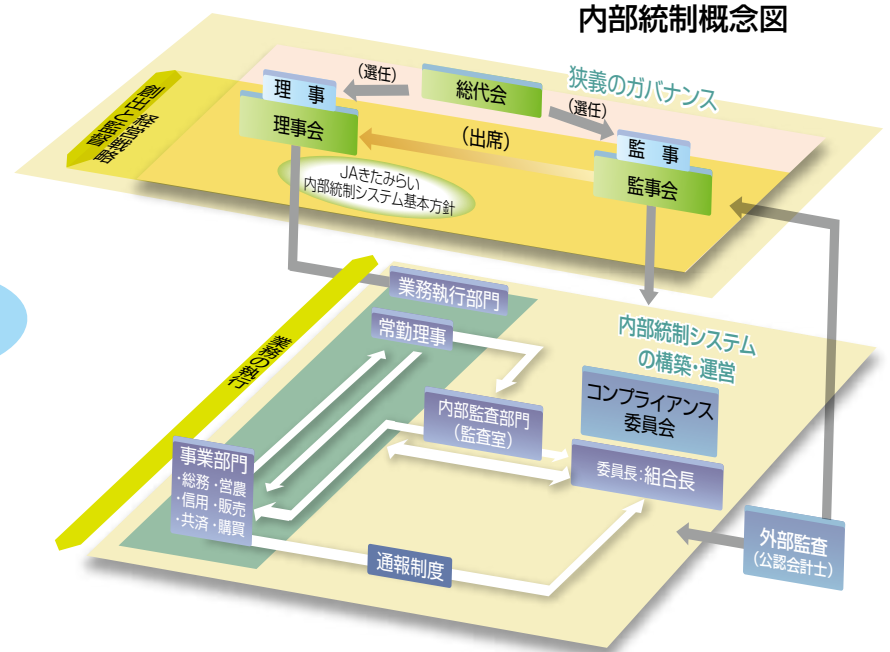
令和 7 年 12 月
きたみらい農業協同組合

400012



コーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンス及び
内部統制概念図



個人情報保護

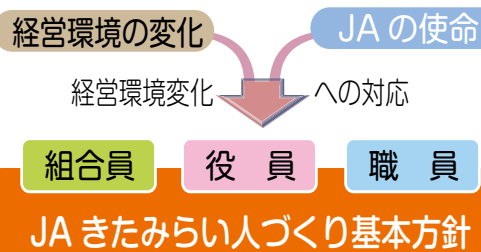
18

人的結合が組織の特性であり、組合員・役員・職員が一体となった人づくりを行っています。

人と人との結びつきを大切にする、先を見据えた人づくり

人づくり基本方針について

将来を見据え、組合員・役員・職員が一体となって協同組合運動の再認識と実践をすることで、持続可能な地域農業・地域社会発展のための礎を再構築していきたいと考えています。



仕事を通じた成長機会を重視した OJT（職場内研修）を基本とするため、各部署での信頼関係の構築に至るまでの意識的なコミュニケーション（対話）を促進します。

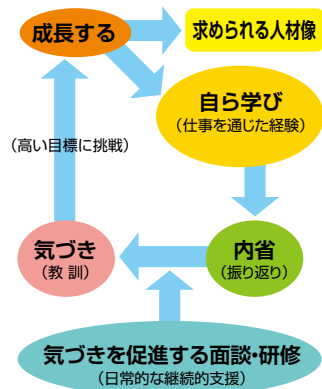
また、人材育成分野の基本理念に基づき職員が「自ら学び、気づき、成長する」ことができる学習機会の積極的な推奨や職場環境の構築に向けた取組を行いながら、人づくりの支援を推進していきます。



人材育成の基本方針



- OJT（職場内研修）を基本とします。
- 組織として統一基準の徹底と個人の自立支援を行います。
- 組合員の負託に応えられる人材を育成します。



*「仕事で人を育てる」経験学習による人材育成サイクル

組合員

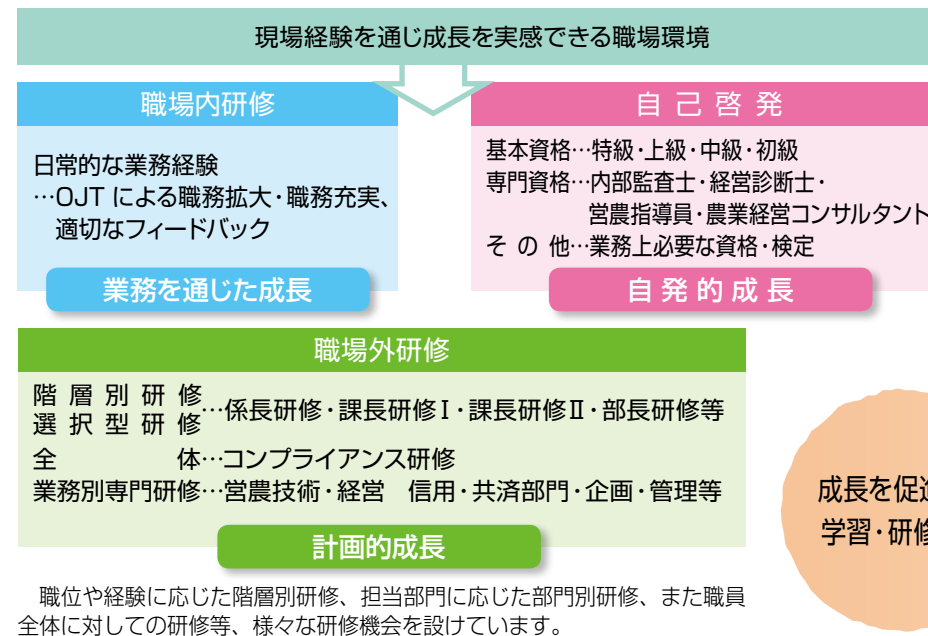


作物別部会や青年女性組織等の自主的な学習活動を支援し、こうした組織活動への積極的な参加推進を行っています。

役員

信頼される人材作りと将来のリーダー育成、協同組合理念の再認識等、経営者として、組織・組合員のリーダー研鑽を図っています。
また、先進事例産地や消費地など、常に農業・農村を取り巻く情勢や動向に敏感に対応出来るよう様々な視察研修を行っています。

職員



JA職員として知識・能力の向上をはかるために様々な資格取得を奨励しています。協同組合に関する知識向上を目的とした基本資格から、事業ごとに、より専門的な能力を身に付ける専門資格、その他業務上必要な国家資格や検定等を取得することで、職員一人ひとりの知識・能力の向上に努めています。

成長を促進する
学習・研修環境

目指す
職員像

職員行動基本心得

1. 謙虚で豊かな人間性の創造のため礼節を重んじる職員。
2. 前向きな発想と創意工夫で現場の課題解決に信念と熱意をもつ挑戦する職員。
3. 自己研鑽に励み、的確な判断力と相談対応力で組合員との信頼を深められる職員。

人事制度

組合員の負託に応え、消費者に選ばれる産地であり続けるためには、職員一人ひとりの能力を最大限に発揮し、環境変化に俊敏に対応した取り組みが重要となります。
JAきたみらいは、様々な制度を構築し、職員が働きがいのある職場環境作りを実践しています。

面接制度

職員個々の能力特性の把握、職務遂行能力を長期的に育成するため、担当職員とその上司が年に数回面接を行っています。

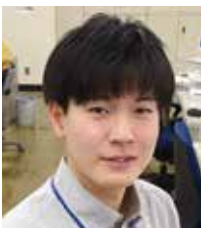
自己申告制度

1年に1度、自己の処遇やJAIに対する意見などを述べる事が出来る機会を設けています。

複線型人事制度

高度化、専門化する業務の遂行にあたり、専門知識、能力、経験をもった職員に対し、その能力を積極的に発揮させると共に職員のライフスタイルに合わせたニーズに対応するための制度を導入しています。

新採用職員研修を終えて



石田 惇也
令和8年入組
金融共済部
北見本店総合渉外課

研修は入組前に農業配送実習、オホーツクJA新採用職員研修会と新採用職員内部研修があり、入組後はJAカレッジにて開催された新採用職員研修と農家実習がありました。
入組前の3月上旬に行われた農業配送実習では、購買部の職員とともに、事前に組合員より注文を取り纏めた農業を配送する準備を行いました。職員だけではなく、たくさんの農業メーカーの方々とも関わったことで、様々な人たちとの協力やつながりのうえに農業が成り立っていることを実感しました。
入組後の4月に行われた農家実習では、当組合監事のもとで9日間現場での定植作業を中心に農作業を行い、農業の大変さと食に対するありがたみを改めて感じることができました。
JAカレッジで行われた新採用職員研修では、ビジネスマナーや文書業務、農協論、各事業論、社会人としての健康管理など、これから社会人として働いていくうえで大切なことを学ぶ良い機会となりました。
これらの研修を通して、社会人として働いている実感や農業に携われていることの喜びを感じられました。今後は組合員や地域の利用者の方々から信頼される職員を目指して、謙虚にひたむきに業務に向き合ってまいります。



JAきたみらいの事業

JAの事業は農家組合員の営農サイクルに合わせた事業を展開しています。



営農指導事業

農家組合員が自主的に技術や農業経営など、営農に関わる内容や生活を改善するための協同活動を助言・支援する事業

営農振興部

- 行政等と連携した農業振興
- 補助事業等の実施業務
- 担い手支援
- 教育・広報活動

経営支援部・畜産部

- 「出向く営農」の実施
- 農畜産物栽培の技術指導
- 経営相談の実施
- 組合員窓口対応
- 総合的地域開発業務

販売事業

農家組合員が生産した農畜産物をJAが集荷し、付加価値をつけて販売するという事業

販売企画部・畜産部

- 作目別部会事務局
- 農畜産物の集出荷・選別・販売
- 販売戦略の構築・きたみらいブランドの確立
- 選果施設の管理
- 加工品の開発

購買事業

農業生産に必要な資材や生活物資を共同購入し、組合員によりよいものをより安く、安定的に供給する事業

購買部

- 「出向く購買」の実施
- 生産資材の安定供給
- 農業機械・車両の供給・修理
- ガソリン・灯油・軽油等燃料の供給

信用事業・共済事業

信用事業

組合員からの貯金を受入れし、これを組合員に貸し付ける相互金融によって、営農と生活の改善・向上をはかる事業

共済事業

くらしの相互保障活動として、くらしに生じる不時の災害、組合員及び家族の高齢化や家屋等の老朽化などについて損害の補てんや蓄えとして長期的にくらしの安定を図る事業

金融共済部

- 「出向く信用・共済推進」の実施
- 貯金の受入れ、引出しに係る窓口業務
- 融資の相談業務
- 共済契約者訪問活動
- 共済契約者の事故、入院等への対応
- 共済加入者の相談対応

管理部門

経営管理、活力ある健全な職場づくり、職員教育等、組織を支え運営していくための活動を行う

総務企画部

- 年次計画・決算・財務に関する業務
- 中期経営計画・人事・労務に関する業務
- リスク管理・コンプライアンスに関する業務

監査部門

経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、内部管理体制が適切か評価し、問題点の改善方法について助言・支援を行う

監査室

- 監査の実施・内部統制の有効性評価
- 内部監査による情報収集と業務処理の効率化にむけた提案指導
- 不正・不当事件の未然防止

令和7年度 JAきたみらいの主な作目の作付面積、生産量、畜産物取扱高

部門	区分	品目	面積(ha)	生産量(t)
農産	水稲	うるち玄米	46.2	268.0
		もち玄米	613.2	3,558.5
		水稲計	659.4	3,826.5
	麦類	春小麦	1,398.1	5,213.8
		秋小麦	3,824.9	21,559.4
		大麦	—	—
		麦類計	5,223.0	26,773.2
	豆類	大豆	1,427.9	4,637.4
		小豆	202.6	516.8
		金時	1.7	1.7
		虎豆	12.6	28.1
		大福	20.8	54.3
		白花豆	37.9	88.4
		紫花豆	14.0	29.7
		その他	67.7	224.2
		豆類計	1,785.2	5,580.6
	てん菜	てん菜	2,733.6	155,721.5
		そば	2.7	2.4
		しそ	10.9	0.4
		薬草	—	—
		農産計	10,414.8	191,904.6

部門	区分	品目	面積(ha)	生産量(t)
畜産	馬鈴しょ	玉ねぎ	4,564.9	188,251.6
		食用	1,206.0	42,420.0
		種子用	304.9	9,309.6
		加工用	518.9	14,455.1
		澱原用	2.6	109.9
	青馬鈴しょ	馬鈴しょ計	2,032.4	66,294.6
		にんにく	7.5	29.3
	野菜	ほうれん草	1.6	30.4
		スイートコーン	357.2	4,986.3
		メロン	5.0	112.0
		白菜	17.6	923.8
		赤玉ねぎ	173.8	6,603.6
畜産	その他	ペコロス	9.4	137.7
		その他青果物	511.3	10,186.3
		野菜計	1,083.4	23,009.4
		青果計	7,680.7	277,555.6
		農産・青果合計	18,095.5	469,460.2

部門	区分	品目	数量(t・頭)
畜産	乳牛	生乳(t)	87,690
		育成牛	856
		初妊牛	689
		経産牛	278
		乳牛計(頭)	1,823
畜産	肉牛	初生トク	5,028
		素牛	2,504
		肥育牛	349
		廃用牛	1,621
		牛肉計(頭)	9,502
畜産	その他	豚	287
		馬	8
		計(頭)	295

地域耕地面積(農産・青果・畜産)
24,673.2 ha

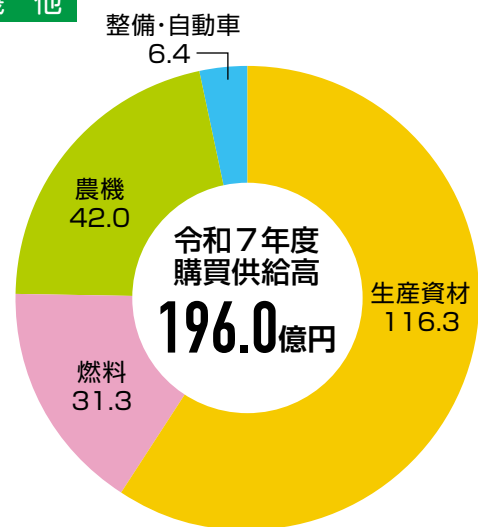
JAきたみらいの農産・青果・畜産取扱高品目別構成





JAきたみらいの事業

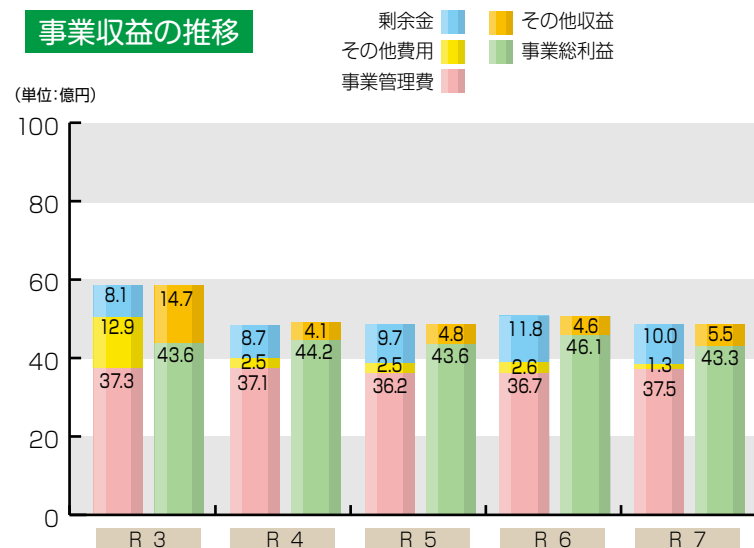
生産資材・燃料・農機 他



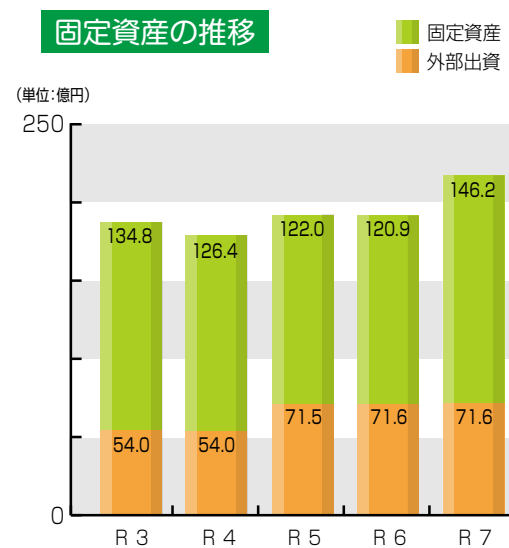
信用・共済事業 他

貯 金	1186.9億円
借 入 金	91.8億円
貸 出 金	140.1億円
預 金	1048.4億円
短期受入共済掛金	8.2億円
長期共済保有高	1758.6億円
長期共済新契約高	129.6億円

事業収益の推移



固定資産の推移



単体自己資本比率 の推移

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
25.02%	24.00%	24.07%	24.57%	26.78%

固定比率の推移

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
167.4%	178.9%	183.2%	181.7%	192.8%

(令和8年1月末現在)

第三者 意見

北海道大学大学院農学研究院
(地域連携経済学研究室)

准教授 小林 国之氏



気候変動はいまや農業にとって最も喫緊の課題のひとつとなっています。今年のレポートでも、自然災害の多発や栽培適地の変化が農業経営に大きな影響を与えていることが指摘されています。気候変動はいまや、少し先に起こる出来事ではなく、すでに私たちの足下で進行している現実だと受け止めざるを得ません。農業を続けていくうえで、気候への対応はもはや選択肢ではなく必然だといえるでしょう。

改正基本法のもとで策定された新たな基本計画でも、環境調和型産業への転換が明確に掲げられましたが、その実践に向けた道筋は必ずしも見えていません。これまで農業は、とすれば気候や環境から「影響を受ける側」として語られがちでした。しかしこれからは、農業そのものが環境をよりよくしていく担い手となる、そうした発想の転換が求められているのだと思います。

その点でこのCSRレポートで紹介されているJAきたみらいの取組は、時期を捉えたものと評価できます。J-クレジット制度を活用し、バイオ炭を玉ねぎの圃場に施用して炭素を土壌に貯留する。そして環境配慮型の玉ねぎ「環」「サステナブルたまねぎ」を通じて、その取組を消費者へと伝えていく。生産から販売、さらには消費者との結びつきまでを一貫してつなぐこうした活動は、協同の組織であるJAだからこそ実現できるものだと思います。

今後は、こうした取組を単なる温室効果ガスの削減やクレジットの創出という枠組みではなく、土壌の健康を取り戻すという農業の持続にとって不可欠な取組として、地域全体に広げていくことが必要ではないでしょうか。土そのものを豊かにし、その健康を取り戻していくためにはさまざまなやり方があります。大切なのは、どの方法が良いかということではなく、それぞれの状況に応じて、生産者が連携、協力をして取組でいくことにあるでしょう。

気候変動に強い農業、そしてこれからも続けていける農業の土台にあるのは、ほかでもないこの健康な土壌にほかなりません。土壌の健康をベースとした農業を地域全体で確立していくこと。そのためにこれまでの取組を踏まえてさらなる事業、活動を展開していくことが期待されます。

そして、こうした足下からの地道な取組を消費者に伝え、理解の輪を広げていくこともまた、JAに託された大切な役割です。JAきたみらいに関係する皆さんには、土を守ることが地域の食と暮らし、そして未来を守ることにつながっているという誇りを持って、これからも協同の取組を力強く展開していただきたいと思います。

略 歴 1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了の後、助教を経て、2016年から現職。主な研究内容は、農村振興に関する社会経済的研究として、新たな農村振興のためのネットワーク組織や協同組合などの非営利組織、新規参入者や農業後継者が地域社会に与える影響など。

主な著書 『テーマで探究 世界の食・農林漁業・環境 ほんとうのサステナビリティってなに?』2023年 農文協(共著)

『協同組合のスーパーバグ』2020年 筑波書房(共著)

『北海道から農協改革を問う』2017年 筑波書房(編著)

『総合農協のレーゾンデートル』2016年 筑波書房(共著)

『ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能』2013年 農文協

『日中韓農協の脱グローバルイゼーション戦略』2013年 農文協

『農協と加工資本 ジャガイモをめぐる攻防』2005年 日本経済評論社

家の光協会『地上』において「小林国之の協同組合LABO」を連載中